

地域づくり活動 NPO 事業助成事業 実績報告

事業区分 (01-12)

団体名	(特非) 女性医学健康研究所	代表者名	理事長 池田 義和
事業名	北神地域での産後ケア事業の妊産婦への周知と利用の拡大		

<事業実施実績>

年月日 定例は「月1回」「毎 ○曜日」等で記入	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) ※講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
4月 1日	三田市役所	2 (2)	三田市と産後ケア事業宿泊型事業委託契約
5月10日～13日	三田市産後ケアハウス	3 (3)	宿泊型3泊4日産後ケア事業丹波篠山市委託 (3名夫と母子)
5月17日	じばやんクラブ 三田市	6 (1)	子育て支援育児母乳相談
6月 1日	三田市役所	1 (2)	三田市と産後ケア事業通所型事業委託契約
6月29日	じばやんクラブ	8 (1)	子育て支援育児相談 (母乳相談1名乳管閉塞の初産婦)
7月14日	じばやんクラブ	6 (1)	子育て支援育児相談 (母乳相談乳糖不耐症・アレルギー)
7月19日	宝塚NPOセンター	(1)	R4年度コミュニティ・ビジネスICT活用促進事業Zoom・SNS全般講習の受講 (事業の広報の方法について相談)
7月23日～24日	三田市産後ケアハウス	2 (1)	宿泊型1泊2日産後ケア実施三山市委託
7月26日	宝塚NPOセンター	(3)	R4年度コミュニティ・ビジネスICT活用促進事業Zoom・SNS全般講習受講ホームページ作成Instagramについて
8月29日	事務所	(3)	ひょうごボランティアプラザから事業所訪問
9月26日	事務所	(2)	勉強会
9月27日	じばやんクラブ	6 (1)	子育て支援育児 (母乳相談授乳)
4/6・6/29 8/14・8/23/9/8 9/19・9/22 10/11・10/13 10/22×2 10/30・11/21 12/22・1/14 1/25	三田市・神戸市・丹波 篠山市の家庭訪問依頼 者の自宅	訪問産 後ケア 希望者 計16名 (2)	訪問型産後ケア依頼者で自治体からの助成金の制度が無い ために利用できない産婦の利用料を、初回のみ2000円 免除し、産後ケアの認知拡大のキャンペーン期間として 産後ケアのホームページを見ていただき居住自治体のア ンケート等で産後ケア実施拡大の要望してもらうよう働 きかけた
7～9月配信 オンライン授業	事務所・ 自宅	(2)	助産師産後ケア実施のための勉強会・資料コピー
10月～12月 オンライン講習	事務所・ 自宅	(2)	助産師産後ケア実施のための勉強会・資料コピー

7/3・9/16・1 1/22・12/11 オンライン講習	自宅	(2)	同上
8月～11月	自宅	(3)	ホームページ制作（産後ケア認知拡大のため制作依頼）
8月～11月	丹波篠山市・三田市	(2)	チラシの配布500枚兵庫医大医療センター・小嶋医院・ ポーンクリニック・丹南保健センター・じばやんクラブ
9月13日	三田市まちづくり共同 センター	(1)	上手な見せ方のコツ講習の参加
10月3日～6日	三田市産後ケアハウス	3 (3)	宿泊型3泊4日産後ケア事業丹波篠山市委託 夫と母子の3名
10月8日～10日	三田市産後ケアハウス	3 (1)	宿泊型1泊2日産後ケア実施三山市委託実施 夫と母子の3名
10月27日	生きがい仕事サポート センター	(1)	ライン公式アカウント活用法講習の参加
12月6日	三田市まちづくり共同 センター	(1)	人とお金のやりくり講習の参加
1月15日～18日	三田市産後ケアハウス	2 (3)	宿泊型産後ケア3泊4日母子2名の利用で実施。東京から 丹波篠山市に里帰りされ三田市民病院で仮死のため緊急 帝王切開後の入院中、実家の親族がコロナ感染のため帰 宅困難。丹波篠山市より紹介も実費入所しかできず10万 円のところ2万円をひょうごボラプラ助成金から使用を 臨時理事会で異議なく承認。
1月21日	北神文化センター	20 (1)	子育て支援・助産師の女性のための健康相談
2月13日	学校厚生会館	(1)	母子保健担当者研修会参加
2月14日	クリスタルタワー	(1)	ひょうごボランティア基金地域づくり活動NPO事業助成 事業報告会

<効果と成果>

三田市との産後ケア事業の委託契約を4月1日宿泊型・6月1日通所型産後ケアの締結により、新生児訪問や問い合わせ時に保健師や助産師からチラシの配布、照会があり利用の拡大につながった。それ以外ではホームページをみて連絡が入り、補助金を利用して里帰りのため支援を利用できない産婦や、三田市の訪問型の支援がないため、初回だけではあるが安価にケアを利用してもらうことができた。コロナの第7、8波の影響で明らかに乳腺炎の発熱で苦痛を伴っている産婦や、里帰りの産婦からクリニック等で診察を拒否されたとの照会や問い合わせがあり、発熱外来の照会やケアの実施につなげることができた。同時に外部委託の利用でホームページ作成し、産後ケアの事業の認知・広報につなげた。子ども支援を通じ、じばやんクラブやNPO法人場とつながりの研究センター主催の相談業務に参加、経営や広報のための講習会に参加する機会を得た。ケア担当の助産師自身が産婦に対する相談業務や指導のため、メンタルヘルスケアや授乳、新生児の成長発達、性教育・頭蓋変形などzoomによるオンライン講習でスキルアップの機会を得ることができた。また産婦に提供する教材資料を取得することができた。

<今後の展望>

コロナ禍第7・8波影響があり問い合わせや依頼が例年より多く見られた。里帰りした実家で、乳腺炎と考えられる発熱で苦痛のある産婦が、診察拒否され受診できず困っているとの問い合わせや依頼があった。今年1月には里帰りしてきたものの、実家でコロナ感染のため親族が隔離となり、出産した市民病院では入院の延長が1日しかできず、あちこち自治体など連絡検討した結果、当産後ケア施設での実費払いでの利用につながったが、産婦のストレスや負担は甚大なものであった。産後ケアの認知・利用・拡大については継続していく必要がある。また利用期間や利用の原因や理由についても自治体間の格差がなくなり、産婦が必要な時にスムーズに利用しやすく、ニーズに沿う支援であるよう声を届けたい。里帰り先での自治体の産後ケアがうけられないことや、支援内容や料金に自治体による格差もある。さらに宿泊型の利用では日数が長くなるほど現補助金額では、助産師が24時間付き添うのが原則のため、十分な人件費も支払われず経営や運営的には非常に困難に変わりはなく、これらの課題について少しずつ改善を要望していく必要がある。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	300,000
自己資金	71,089
寄付金	11,000
合計	382,089

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金 (円)
直接経費	人件費	144,600	74,000
	委託費	109,610	102,000
	教材費	34,596	34,000
	その他(講習会・交通費等)	59,720	57,000
	小 計	348,526	267,000
間接経費(一般管理費)		33,563	33,000
合 計		382,089	300,000